



▲ゾートロープ（回転のぞき窓）によるアニメーションづくりに挑戦。走る馬のイラストを描いた円筒をくるくる回すと、筒の中で馬が元気よく走る光景が広がります。

4月2日(土)／所沢図書館本館
(撮影：市民カメラマン・伊藤磨紀子)

みんなのひろば



▲公園の花壇に美しい花を咲かせてくださっている『花と緑のボランティアの会』の皆さん。今年はたくさんの鯉のぼりとともに東日本大震災の被災者への励ましのメッセージも吊り下げました。

4月14日(休)／緑町中央公園



▲好天に恵まれた暖かい春の日に、「第60回記念所沢市子ども写真大会」が開催されました。子どもたちは、楽しい乗り物や美しく舞う桜の花びらなどを色鮮やかに描いていました。

4月16日(土)／西武園ゆうえんち
(撮影：市民カメラマン・八木豪彦)



▲所沢瓢箪クラブの「ひょうたん5月人形教室」。ひょうたんに顔を描くときには、絵筆を握る手に力がこもります。

4月18日(月)／老人福祉センター緑寿荘

おうちで食べよう！所沢の学校給食

① 笹かまのお茶揚げ

今号から、栄養士さんが考えた学校給食のメニューの中から、所沢産の食材を取り入れたものや、特色あるレシピを紹介しします。どれも栄養満点です。ぜひご家庭でも作ってみてください。

- ◆今回の献立
- 発芽玄米ごはん
- 牛乳
- 笹かまのお茶揚げ★
- 牛肉じゃが
- 小松菜の辛子あえ



★笹かまのお茶揚げ

材料（4人分）

- 笹かまぼこ……………4枚
- せん茶（粉茶）……………小さじ1
- 小麦粉……………大さじ4
- 水……………50cc
- 塩……………少々
- 揚げ油

作り方

- ①笹かまぼこに軽く小麦粉をまぶしておきます。
- ②小麦粉にせん茶と水を加えて衣を作ります。
- ③学校給食では食物アレルギーへの対応として、衣に卵を使用していませんが、卵を使用すると軽く出来上がります。
- ④180℃に熱した油で揚げます。

ここがポイント ～所沢は狭山茶の産地です～

夏も近づくと八十八夜…。5月は茶摘みの季節です。武蔵野の豊かな大地に育まれた狭山茶は、他の茶の主要生産地に比べて冷涼な場所にあるため、温暖な生産地の茶園に比べて冬の寒さにより栽培が難しくなりますが、独自の強い火入れ製法によって、甘く濃厚な味わいが自慢です。

学校給食では、特産品である狭山茶を飲用として提供するだけでなく、食材としても積極的に取り入れています。

問い合わせ 保健給食課 ☎2998-9249 ☎2998-9167

はっぴー野老っ子



平成23年3月11日(金)、東北地方太平洋沖地震が発生し、日本中が大きく揺れました。この地震による大津波は戦後最大の被害をもたらしました。地震発生当日に、所沢市は16人の緊急消防援助隊を派遣しましたが、今回はその隊長を務めた市消防本部中央消防署の石井英夫さんにお話を伺いました。

平成15年から埼玉県防災航空隊のヘリコプター部隊として配属され、救援・救助活動に従事しました。翌16年の新潟・福島豪雨では初動要員として被災地へ飛び、「家の屋根や学校の屋上で救助を待つ多くの人を確認しました」。また同年の新潟県中越地震では山古志村に入り「体力ぎりぎりまで牛や鯉の世話をしていた人々を救助しました」が、実際に体験する災害現場は、場所によって全く状況が異なると話してくれました。

先の東日本大震災では、刻々と深刻化する被災地の状況に「すぐに派遣になるだろう」とすでに出発する心の準備はできていました。被災当日の午後11時に所沢を出発。その後埼玉県内44隊172人が合流し岩手県陸前高田市へ向かい、現地到着は翌12日午後6時のことでした。「山を越え、海岸線がひらけてくる場所まで来たとき、目の前すべてがれきの山でした」と、現地の状況に身が凍る思いをしたそうです。

恋の5分前

北中 吉田 静枝

昔々、私がまだホヤホヤの女学生になりたてのころ、大学を卒業したての若い男の国語の先生が赴任して来ました。

授業は「光源氏」の話でしたが、途中でその先生が「戀」という字は「糸糸」と言つて「恋」と覚えなさいと言いました。私はなるほど、と思いましたが、

先生は私たちの方は見ないで、窓の方ばかり見ながら授業は終わりました。私たちは、何やらおかしくて休み時間外に出てみんなでゲラゲラと新米先生のことを笑ったものでした。今は「戀」も「恋」の字になりましたが、今回のテーマでなぜか昔の先生が、なつかしく浮かびました。

被災者のために全力で

緊急消防援助隊第一次埼玉県隊（所沢隊）隊長 石井 英夫さん

陸前高田市は、サイレンが鳴れば自主的に避難する防災意識の高いまちであったにもかかわらず「被災状況を見るとまさに想定外の津波だった」とその津波の大きさに驚きを隠せません。

石井さんは、この未曾有の災害を目の当たりにし、「あらためて所沢市の防災について考えるようになりました」と話します。「いざ災害が発生したとき、各家庭の備えは十分か、非常用持ち出し品、家族との連絡方法、家具の転倒防止などまだ徹底できていないことも多いのではないかと心配します。また「被災地では被災者自らが炊き出しや安否確認を行っていた。近所付き合いが大切で、普段から地域との関わりを深めてほしい」と人々のつながりに期待を寄せます。

後輩消防士に対しては「災害対応はとても困難であるが、被災者本人が一番つらいはず。自分はその人たちのために全力で頑張ってきた」この気持ちを伝えたいと語ります。

石井さんの体験から、みなさん今一度、地域の防災・安全について、そして東北地方の復興のため自分にできることを考えてみましょう。



▲陸前高田市での捜索活動の様子

誰でもエッセイ

写真に恋

◆テーマ「恋」◆

友人と旅行に行き写真が趣味という方にお会いし、写真家の視点で撮り方を教えていただき写真に恋をしました。携帯電話でメールのやり取りをしているうちに「ときめき」を覚え主人に内緒にしていました。ある日、大きな写真が届け、とうとう主人のいる前で、お礼の電話をして、1か月の「ときめき」が終わりました。

写真に恋したのは、初めてでした。いつまでも若い心でいたいと思いました。

映画が大好きな私はヒロインになり、しびれるようなまなざしを感じたり、甘い言葉やさやかれたり、ありえない冒険だっと思います。大好きな彼となら、何だって怖くありません。

違った人生やロマンスに陶酔です。

松郷 石原 晃子

私、いつも恋しています。

相手？、ジョニー・デップ、ジョージ・クルーニー、リチャード・ギア…です。

ところざわ 歴史まめ知識

所沢市域にかかわる歴史的事項を50音順で紹介しています。今号は「さ」です。

狭山湖 狭山丘陵の谷を堤でふさいで築かれた人造湖。正式には「山口貯水池」といいます。昭和のはじめ、東京市（当時）の水がめとして、南側の多摩湖（村山貯水池）に続き作られました。多摩川の水が羽村の取水口から引かれていました。昭和4年（1929）に着工したこの工事によって、山口村（当時）の勝楽寺地区、堀口地区の一部が湖底に沈むことになり、282戸が移転を余儀なくされました。その後、昭和20年代には首都圏近郊の観光地として注目され、周辺にユネスコ村など観光施設の整備が進みました。「狭山湖」の通称もそのときにつけられたものです。



▲狭山湖全景

桜木神社 大字下新井にある国学者本居宣長を祭る神社です。下新井村の森田道依は、幼少から学を好み、特に本居宣長に心酔して本居家三代目の内縁に入門、ついには宣長の没後50年にあたる嘉永3年（1850）、所有の山林に桜木神社を創建しました。国学とは、古事記や万葉集などの研究を通じて、仏教が伝わる以前の日本人の精神を明らかにしようとする学問で、江戸時代後期にたいへん盛んになりました。「桜木神社」の名は、宣長が桜を好んだことに由来します。

狭山三十三番札所 西国や坂東など著名な観音霊場にならって、江戸時代後期に金乗院（山口観音）の僧亮盛と、三ヶ島妙善院の僧亮果が創設した観音霊場。金乗院を第一番、妙善院を最後の三十三番として、狭山丘陵周辺の33か寺から構成され、無住の小堂も含めて市内には12か所が点在します。33という数字は、本尊の観音が衆生を救うため33の姿に変化すると経典で説かれていることに由来します。

問い合わせ 生涯学習推進センターふるさと研究 ☎2991-0308 ☎2991-0309